

「後ろ向き観察研究による原発不明癌からの脳転移に対する定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)の実態調査」に関する「お知らせ」と「お願い」

現在、当院脳神経外科において、「後ろ向き観察研究による原発不明癌からの脳転移に対する定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)の実態調査」を実施しております。

皆様のご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

1. 研究の対象

当院で原発不明癌からの脳転移に対する定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)を受けられた方。

2. 研究の目的・方法

一般に原発癌からの脳転移の割合は約 15-40%とされています。転移性脳腫瘍の原発巣の割合では肺癌が約 50%で圧倒的に高い数字を示していますが、一方で原発不明癌は15%程度に認められると報告されています。CT、PET、内視鏡、腫瘍マーカーなどの癌検出目的の検査が進歩する一方で、がん罹患率が増加を示している現代においては原発不明癌も未だに多く存在し、そこからの脳転移症例も多く存在するのが現状です。原発不明癌は一般的に予後不良とされていますが、神経機能維持、神経死予防のためにも脳転移に対する治療は必要です。

転移性脳腫瘍に対する治療法の 1 つとして、低侵襲で高い治療効果が期待できる定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)に関する報告は数々見受けられますが、原発不明癌からの脳転移に限局してその治療効果について論じた報告は少なく、今回は当院で治療を行った患者さんの治療成績を後ろ向き観察研究として解析しその治療効果を検証します。具体的には過去のカルテからデータを収集し、治療後の転移性脳腫瘍の腫瘍制御率、生存期間、日常生活動作維持期間、新規病変出現期間などの解析および、それぞれに関与する因子の解析を行います。

研究期間は2017年8月から2018年8月までの1年間です。

この研究を通じて原発不明癌からの脳転移に対する定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)のさらなる治療効果の向上が期待され、その結果を医学界全体に発信出来る可能性があるものと考えます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

治療のデータおよび治療前後の臨床および画像所見の経過を臨床データとして使用します。

4. 外部への試料・情報の提供

研究のために使われる病気や身体の様子、生活の様子についての試料・情報は匿名化し、個人が特定されない状態で本研究終了後も適切に管理、保存します。それらは研究目的以外には一切使用しません。

試料・情報は研究責任者が管理し、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。

対応表は、研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

横浜労災病院 脳神経外科・脳定位放射線治療センター

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問などがありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者・代表者：

〒222-0036

神奈川県横浜市港北区小机町 3211

横浜労災病院 脳神経外科・脳定位放射線治療センター

周藤 高

松永 成生

電話番号：045-474-8111(代表)